

三重県経済の現状と見通し < 2020年7月 >

1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	基調判断(方向等)	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準評価 (注2)
		詳細		
総括判断	景気の現状	<p>厳しい状況にある</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の自粛により、雇用が減少しているほか、企業活動や外需も下振れしており、厳しい状況にある。</p>	→	
	当面の見通し	<p>厳しい状況が続く見通し</p> <p>緊急事態宣言は解除されたものの、感染が再拡大していることから経済活動の回復には時間を要するとみられ、厳しい状況が続く見通し。</p>	→	
家計部門	個人消費	<p>弱い動きがみられる</p> <p>大型小売店販売額(全店ベース)は、5か月連続の前年比増加</p>	→	
	住宅投資	<p>弱い動きがみられる</p> <p>住宅着工戸数は、3か月連続の前年比減少</p>	↘	
	観光	<p>厳しい状況にある</p> <p>県内施設延べ宿泊者数は、9か月連続の前年比減少</p>	→	
	雇用・所得	<p>弱い動きが広がっている</p> <p>有効求人倍率(季節調整値)は、10か月連続の前月比低下</p>	→	
企業部門	企業活動	<p>大幅に減少している</p> <p>鉱工業生産指数は、15か月連続の前年比低下</p>	↘	
	企業倒産	<p>悪化しつつある</p> <p>倒産件数は、3か月連続の前年比減少</p>	→	
	設備投資	<p>弱含み</p> <p>非居住用建築物着工床面積は、3か月連続の前年比減少</p>	→	
海外部門	輸出	<p>大幅に減少している</p> <p>四日市港通関輸出額は、7か月連続の前年比減少</p>	→	
公共部門	公共投資	<p>持ち直しの兆し</p> <p>公共工事請負金額は、2か月連続の前年比増加</p>	↗	
その他	物価	<p>弱めの動き</p> <p>津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、2か月振りの前年比上昇</p>	→	

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗:上方修正、→:据え置き、↘:下方修正を示す。

(例えば、「回復」「減速」となれば下方修正、「回復」「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、:晴、|:晴~曇、:曇、|:曇~雨、:雨、を示す。

(注3)個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三十三総研 調査部 佐藤
	電話:059-354-7102 Mail:33ir@miebank.co.jp

2. 個別部門の動向: 家計部門

個人消費	弱い動きがみられる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	

現状

個人消費は、弱い動きがみられる。

個人消費の動向を支出者側からみると、5月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比 24.9%と3か月連続の減少(図表1)。なお、勤労者世帯可処分所得(津市)は特別定額給付金の受給により同 +48.4%と大幅に増加(前掲図表1)。

個人消費の動向を販売者側からみると、5月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースでは前年比 +9.8%と5か月連続で増加したほか、既存店ベースでも同 +3.0%と2か月振りの増加。全店ベースを商品別にみると、衣料品(同 28.3%)が8か月連続の減少となった一方、飲食料品(同 +16.2%)や家庭用品(同 +24.9%)がそれぞれ6か月連続、4か月連続の増加。

6月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、5,546台(前年比 19.6%)となり、前年比で9か月連続の減少(図表3)。車種別にみると、普通車(同 23.7%)、軽乗用車(同 18.0%)が9か月連続、小型車(同 16.8%)が3か月連続の減少。

見通し

東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、5月の家計部門の水準は41.6と前月(17.5)から大幅に改善。ウォッチャーの声では、「自粛ムードが減り、来店客数が増えてきた」といった声のほか、「キャッシュレス5%還元が6月末に終了することに伴い、駆け込みがみられた」といった声も聞かれた。2~3か月先の景気の先行きに対する判断DIについても50.6と改善しているものの、足元で感染者数が急増していることから、マインドは再び落ち込む懸念あり。

先行き個人消費は、外出自粛の反動に加え、特別定額給付金の支給も追い風となり、徐々に落ち込んだ需要を取り戻すとみられる。もっとも、雇用・所得環境は大幅に悪化しているほか、足元で感染者数が拡大傾向にあることから自粛ムードが再燃する恐れもあり、緩やかな動きにとどまる可能性。

5月 勤労者世帯・消費支出

254千円 前年比 24.9% (3か月連続の減少)

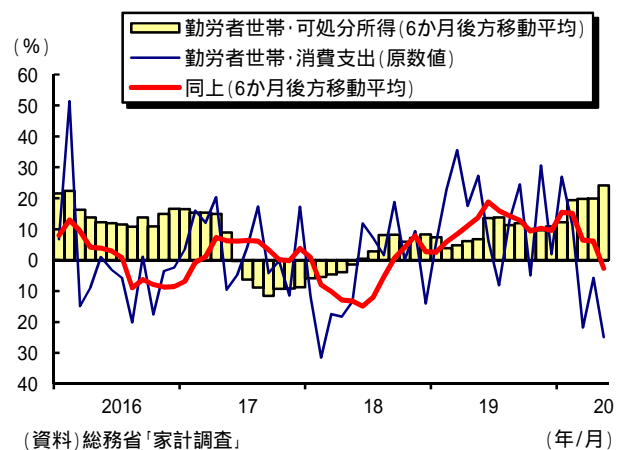
5月 大型小売店販売額

全店 前年比 +9.8% (5か月連続の増加)
 既存店 前年比 +3.0% (2か月振りの増加)

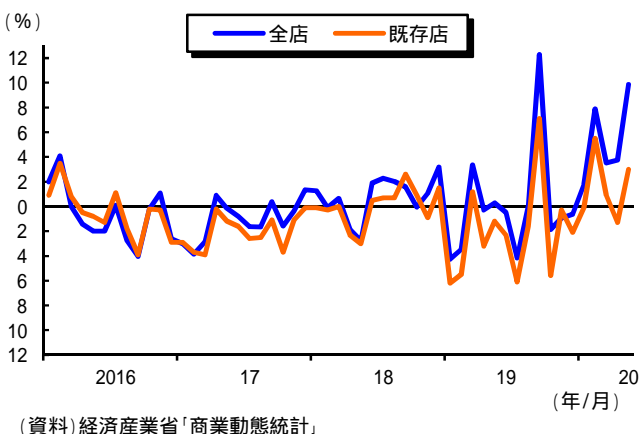
6月 新車乗用車販売台数<含む軽>

5,546台 前年比 19.6% (9か月連続の減少)
 ・普通車 前年比 23.7% (9か月連続の減少)
 ・小型車 前年比 16.8% (3か月連続の減少)
 ・軽乗用車 前年比 18.0% (9か月連続の減少)

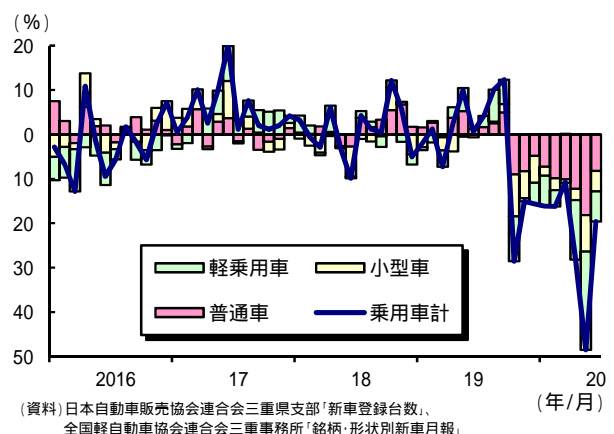
図表1 津市消費支出等<前年比>



図表2 大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



住宅投資	弱い動きがみられる	基調判断の前月との比較	↘																				
		水準評価																					
<p>現状 住宅投資は、弱い動きがみられる。 5月の住宅着工戸数は、669戸（前年比 30.2%）となり、前年比で3か月連続の減少（図表4）。利用目的別にみると、貸家（同 51.0%）が大幅に減少したほか、持家（同 16.7%）や分譲住宅（同 20.8%）がそれぞれ8か月連続、4か月振りに減少。</p> <p>見通し 2019年10月の消費増税後の景気落ち込みに新型コロナの影響が加わり、住宅市場を取り巻く環境は厳しさが持続している。先行きも、消費者マインドの低迷が続いていることに加え、雇用・所得環境が急速に悪化していることから、住宅取得意欲が大きく強まることは考え難く、当面、緩やかな減少が続くと予想される。</p>																							
<p>5月 住宅着工戸数</p> <table border="1"> <tr> <td>669戸</td> <td>前年比</td> <td>30.2%</td> <td>（3か月連続の減少）</td> </tr> <tr> <td>・持家</td> <td>404戸</td> <td>前年比</td> <td>16.7%（8か月連続の減少）</td> </tr> <tr> <td>・貸家</td> <td>180戸</td> <td>前年比</td> <td>51.0%（2か月振りの減少）</td> </tr> <tr> <td>・給与住宅</td> <td>1戸</td> <td>前年比</td> <td>±0.0%（横這い）</td> </tr> <tr> <td>・分譲住宅</td> <td>84戸</td> <td>前年比</td> <td>20.8%（4か月振りの減少）</td> </tr> </table>		669戸	前年比	30.2%	（3か月連続の減少）	・持家	404戸	前年比	16.7%（8か月連続の減少）	・貸家	180戸	前年比	51.0%（2か月振りの減少）	・給与住宅	1戸	前年比	±0.0%（横這い）	・分譲住宅	84戸	前年比	20.8%（4か月振りの減少）	<p>図表4 新設住宅着工戸数 < 前年比 ></p> <p style="font-size: small;">（資料）国土交通省「建築着工統計」</p>	
669戸	前年比	30.2%	（3か月連続の減少）																				
・持家	404戸	前年比	16.7%（8か月連続の減少）																				
・貸家	180戸	前年比	51.0%（2か月振りの減少）																				
・給与住宅	1戸	前年比	±0.0%（横這い）																				
・分譲住宅	84戸	前年比	20.8%（4か月振りの減少）																				

観光	厳しい状況にある	基調判断の前月との比較	⇒								
		水準評価									
<p>現状 観光は、厳しい状況にある。 4月の三重県内施設延べ宿泊者数は、152千人泊（前年比 79.1%）となり、前年比で9か月連続の減少（図表5）。外国人宿泊者数については1千人泊（同 96.1%）となり、前年比で3か月連続の大幅減。</p> <p>見通し 三重県は、7月15日～10月31日の期間中に県内の約560の宿泊施設で利用できる宿泊料半額クーポン「みえ旅プレミアム旅行券」を発行したほか、政府の観光支援事業「Go To トラベル」と連動した県独自の宿泊割引を上乗せする施策を9月以降に実施予定など、観光業の早期回復に向けた取組を行っている。世界的な新型コロナの収束は見通せず外国人観光客の減少は続くと思われるものの、国内客は徐々に持ち直ることが期待される。</p>											
<p>4月 県内施設延べ宿泊者数</p> <table border="1"> <tr> <td>152千人泊</td> <td>前年比</td> <td>79.1%</td> <td>（9か月連続の減少）</td> </tr> <tr> <td>・外国人</td> <td>1千人泊</td> <td>前年比</td> <td>96.1%（3か月連続の減少）</td> </tr> </table>		152千人泊	前年比	79.1%	（9か月連続の減少）	・外国人	1千人泊	前年比	96.1%（3か月連続の減少）	<p>図表5 三重県内施設延べ宿泊者数</p> <p style="font-size: small;">（資料）国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」</p>	
152千人泊	前年比	79.1%	（9か月連続の減少）								
・外国人	1千人泊	前年比	96.1%（3か月連続の減少）								

雇用・所得	弱い動きが広がっている	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	

現状

雇用・所得情勢は、弱い動きが広がっている。

5月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.17倍(前月比 0.12ポイント)と10か月連続で低下し、2013年12月以来の水準に。一方、新規求人倍率(季節調整値)は、1.79倍(前月比+0.03ポイント)と3か月振りに上昇(図表6)。

5月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比 34.7%と10か月連続の減少(図表7)。業種別にみると、製造業(同 40.9%)では、輸送用機械(同 62.6%)、金属製品(同 54.4%)、生産用機械(同 44.4%)などを中心にほぼすべての業種が減少。非製造業では、サービス業(同 46.0%)、運輸業、郵便業(同 54.6%)、卸売業、小売業(同 38.3%)などを中心に多くの業種が減少。

4月の所定外労働時間指数は、前年比 21.2%と7か月連続の低下。名目賃金指数(同 1.7%)は4か月振りの低下で、うち、きまって支給する給与(同 0.9%)は16か月振りの低下(図表8)。

見通し

5月の新規常用求職者は4,985人で、うち事業主都合の離職者は1,228人(前年比+32.9%)と大幅に増加。東海3県の短観6月調査の雇用判断DI(「過剰」-「不足」)をみると、製造業、非製造業ともに過去最大の上昇幅となったほか、製造業では2014年6月調査以来の「過剰」超に。新型コロナウイルスによる需要の低迷は長期化が見込まれており、今後も雇用調整に踏み切る企業が増えていく見通し。

所得についても、時間外労働の減少に伴い弱い動きに転じており、企業業績の悪化が進めば、残業代や賞与が大幅に減少する可能性も。

5月 求人倍率<季節調整値>

有効求人倍率 1.17倍
 前月比 0.12ポイント (10か月連続の低下)
 新規求人倍率 1.79倍
 前月比 +0.03ポイント (3か月振りの上昇)

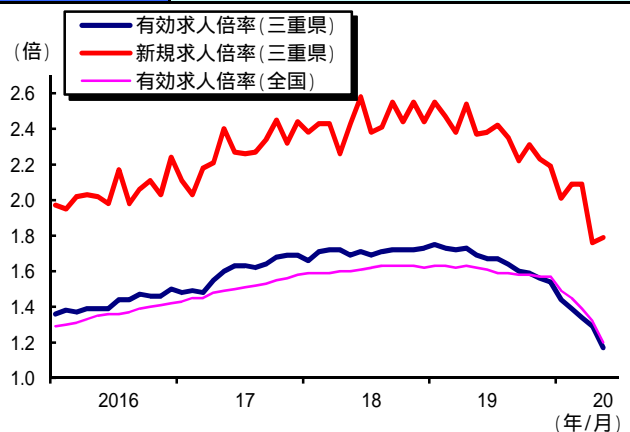
5月 新規求人数<学卒・パートタイム除く>

前年比 34.7% (10か月連続の減少)

4月 労働時間・賃金指数<調査産業計>

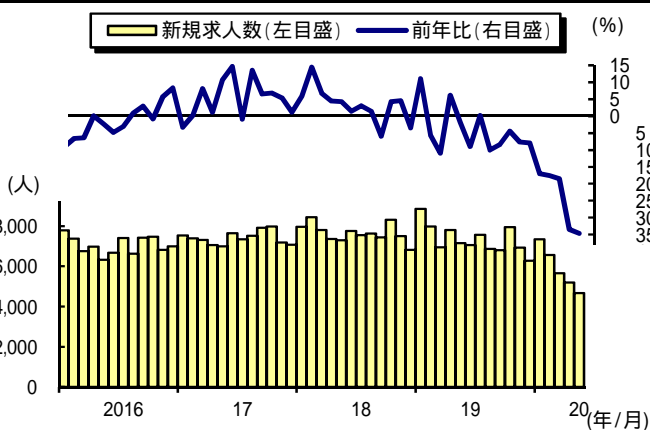
所定外労働時間指数
 前年比 21.2% (7か月連続の低下)
 名目賃金指数
 前年比 1.7% (4か月振りの低下)
 きまって支給する給与
 前年比 0.9% (16か月振りの低下)

図表6 有効・新規求人倍率<季節調整値>



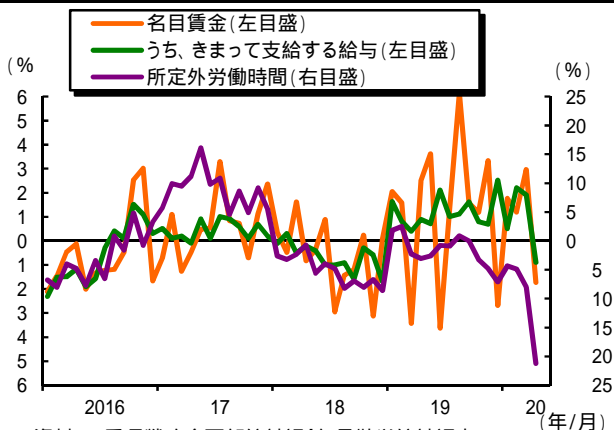
(資料)三重労働局「労働市場月報」

図表7 新規求人数<学卒・パート除く>



(資料)三重労働局「労働市場月報」

図表8 労働時間・賃金指数<調査産業計、前年比>



(資料)三重県戦略企画部統計課「毎月勤労統計調査」

3. 個別部門の動向: 企業部門

企業活動	大幅に減少している	基調判断の前月との比較	↘
		水準評価	
<p>現状 企業の生産活動は、大幅に減少している。 5月の鉱工業生産指数は、前年比 21.3%と15か月連続の低下(図表9)。業種別にみると、電子部品・デバイス(同+1.5%)が8か月連続の上昇となったものの、輸送機械(同 43.9%)が8か月連続の低下となったほか、汎用・生産用・業務用機械(同 47.7%)が10か月連続、化学(同 7.9%)が13か月連続の低下。</p> <p>見通し 先行き生産は、減少が続くと見込まれる。 電子部品・デバイスは、新型コロナの影響でスマホ向けが低迷しているほか、パソコンやサーバー向けも在宅勤務需要の伸びに一服感がみられ、メモリ価格が下落に転じていることから、増勢は鈍化する見通し。 輸送機械は、欧米での自動車販売が持ち直しに転じており、生産も下げ止まるとみられるものの、新型コロナの影響長期化により世界経済の回復ペースは緩やかにとどまることから急回復は見込めず。 汎用・生産用・業務用機械は、中国向けなど一部で回復の兆しが見えつつあるものの、企業の設備投資の先送りや見直しの動きも広がっており、弱い動きが続く見通し。</p>			
<p>5月 鉱工業生産指数 <2015年=100> 82.1 前年比 21.3% (15か月連続の低下) ・汎用・生産用・業務用機械工業 前年比 47.7% (10か月連続の低下) ・電子部品・デバイス工業 前年比 +1.5% (8か月連続の上昇) ・輸送機械工業 前年比 43.9% (8か月連続の低下) ・化学工業 前年比 7.9% (13か月連続の低下)</p>		<p>図表9 鉱工業生産指数 <前年比></p> <p>(資料) 三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>	

企業倒産	悪化しつつある	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 企業倒産は、悪化しつつある。 6月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は4件(前年比 3件)と前年比で3か月連続の減少。一方、負債総額は5,294百万円(同+2,901百万円)と、鈴鹿市のファッションホテル経営業者の大型倒産発生により大幅に増加(図表10)。</p> <p>見通し 政府の大規模な資金繰り支援策によって足元の倒産件数は抑制されているものの、一時的な売上減少への対応という側面が強く、新型コロナの影響が長期化すれば、宿泊・飲食サービスを中心に倒産が大幅に増加する可能性が大。</p>			
<p>6月 企業倒産 倒産件数 4件 前年比 3件 (3か月連続の減少) 負債総額 5,294百万円 前年比 +2,901百万円 (2か月振りの増加)</p>		<p>図表10 倒産件数・負債総額 <負債総額1,000万円以上></p> <p>(資料) ㈱東京商工リサーチ津支店</p>	

設備投資	弱含み	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 企業の設備投資は、弱含み。 5月の非居住用建築物着工床面積は、27千㎡(前年比 37.8%)と前年比で3か月連続の減少。6月の貨物車登録台数(除く軽)も、390台(同 24.6%)と前年比で9か月連続の減少(図表11)。</p> <p>見通し 道路交通網の整備が進み工場や倉庫などの立地の優位性が高まるなか、リサイクル大手のJFEエンジニアリングが国内最大級のペットボトルリサイクル工場を津市に建設すると発表したほか、キオクシアもNAND型フラッシュメモリーを生産する「第7製造棟」の建設を開始。もっとも、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う内外需要の急減や企業収益の悪化を受けて投資マインドが悪化していることから、当面は弱含んで推移することが予想される。</p>			
<p>5月 非居住用建築物着工床面積 27千㎡ 前年比 37.8% (3か月連続の減少)</p> <p>6月 貨物車登録台数 390台 前年比 24.6% (9か月連続の減少)</p>		<p>図表11 設備投資関連指標 < 前年比 ></p>	
		<p>(資料)国土交通省「建築着工統計」、日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」、三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>	

4. 個別部門の動向: 海外部門

輸出	大幅に減少している	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 輸出は、大幅に減少している。 6月の四日市港通関輸出額は、475億円(前年比 21.4%)となり、前年比で7か月連続の減少(図表12)。品目別にみると、乗用車(同 +80.1%)や石油製品(同 +67.6%)が増加したものの、電気回路等の機器(同 52.9%)や自動車の部分品(同 71.1%)などが減少。</p> <p>見通し 欧米と比べて新型コロナウイルスの感染が早期に収束に向かった中国向けは増加に転じたものの、東南アジア向けや米国向けで弱い動きが持続。先行き、感染の再拡大や米中貿易戦争などで不透明感が強く、海外需要の低迷の長期化により、弱い動きが続く見通し。</p>			
<p>6月 四日市港通関輸出額 475億円 前年比 21.4% (7か月連続の減少)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石油製品 19億円 前年比 +67.6% (2か月振りの増加) ・有機化合物 36億円 前年比 35.5% (4か月連続の減少) ・電気回路等の機器 32億円 前年比 52.9% (7か月連続の減少) ・乗用車 79億円 前年比 +80.1% (4か月連続の増加) ・自動車の部分品 18億円 前年比 71.1% (3か月連続の減少) ・科学光学機器 25億円 前年比 +9.5% (3か月振りの増加) 		<p>図表12 四日市港通関輸出額 < 前年比 ></p>	
		<p>(資料)名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p>	

5. 個別部門の動向: 公共部門

公共投資	持ち直しの兆し	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 公共投資は、持ち直しの兆し。 6月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比 +13.2%と3か月連続の増加。請負金額も同 +32.1%と2か月連続の増加(図表13)。中部地方整備局において「木曾川葎ヶ須上流川表高潮堤防補強」や、中日本高速道路において「伊勢自動車道 名古屋支社管内下部工耐震補強」の大型工事があった影響によるもの。</p> <p>見通し 4月末に成立した政府の「新型コロナウイルス緊急経済対策」によって、新型コロナの影響で落ち込んだ景気を下支えするために公共投資を早期執行する方針が示されたこともあり、国土強靱化対策のための防災関連の工事が多く行われている状況。道路関連の大型工事も引き続き行われ、緩やかに持ち直す見通し。</p>			
<p>6月 公共投資 公共工事請負件数 377件 前年比 +13.2% (3か月連続の増加) 公共工事請負金額 194億円 前年比 +32.1% (2か月連続の増加)</p>		<p>図表13 公共工事請負金額</p> <p>(資料) 東日本建設業保証(株)三重支店</p>	

6. 個別部門の動向: その他

物価	弱めの動き	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	
<p>現状 物価は、弱めの動き。 6月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比 +0.2%と2か月振りの上昇(図表14)。保育所保育料などの諸雑費(同 4.6%)や教育(同 5.6%)が下落した一方、ゲーム機などの教養娯楽(同 +2.6%)や菓子類などの食料(同 +1.1%)が上昇。</p> <p>見通し 自宅で過ごす時間が増えたことで「巣ごもり需要」が膨らみ、ゲーム機や携帯電話通信料、菓子類が大幅に伸びているものの、4月の原油安の影響が電気代やガス代に対して少し遅れて出てくるとみられるほか、企業業績の悪化を受けた賃金の下落も長期にわたってサービス価格の下押し圧力となることから、弱めの動きが続く見通し。</p>			
<p>6月 消費者物価指数 < 生鮮食品を除く、2015年=100 > 101.4 前年比 +0.2% (2か月振りの上昇) ・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +1.1% (9か月連続の上昇) ・住居 前年比 +0.2% (2か月振りの上昇) ・光熱・水道 前年比 0.7% (2か月連続の下落) ・交通・通信 前年比 0.2% (3か月連続の下落) ・教養娯楽 前年比 +2.6% (25か月連続の上昇)</p>		<p>図表14 津市消費者物価指数 < 前年比 ></p> <p>(資料) 総務省「消費者物価指数」</p>	

県内経済



トピックス

(2020年6月)

1. 三重県はLGBTの差別を禁止する条例を制定する方針

6月3日、三重県はLGBTなど性的少数者への差別を禁止する条例を制定し、性的指向や性自認を本人の了承なく第三者に暴露する「アウティング」の禁止を都道府県で初めて盛り込む方針を決定。2020年度内の制定を目指す。

アウティングを巡っては、禁止するマニュアルを整備する自治体もあるものの、一部にとどまっているのが現状。三重県は条例制定によって、アウティング被害防止への理解を深めたい考え。性的指向などのカミングアウトを強制することも禁じる方針で、今後、有識者会議を設置し罰則の検討などを進める。

2. 国交省「バスタ」候補地に近鉄四日市駅

6月4日、四日市市は近鉄四日市駅東側の中央通り一帯が、国土交通省が進める「バスタプロジェクト」の候補地に選ばれ、行政や交通関係者らで具体化に向けた検討部会が設置された。同プロジェクトは駅周辺に点在するバスの降車場を集約し、民間のノウハウも活用して管理、運営する事業。

現在、近鉄四日市駅のバス乗降場は駅周辺の3か所に分散している。プロジェクトの候補地に選ばれたことで、駅東口から国道1号までの中央通り一帯(約1万8,000㎡)を対象に、バス乗降場を集約する場所や範囲、関連施設の配置など様々な課題を検討する。

今後、検討部会で整備計画をまとめた後、国交省が事業化の可否を判断する。

3. 三重県が労働者の移籍サイトを開設

6月30日、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている事業者間の労働者の融通を促そうと、三重県は「みえ労働力シェアリング支援ポータルサイト」を開いた。雇用の維持が苦しい業界から、人手が不足している業界へ一時的に「移籍」するのを支援し、失業者が増えるのを防ぐ。

県雇用対策課によると、飲食業など感染拡大による打撃で従業員の雇用を保つことが難しい業界から、業務が増えた衛生用品メーカーや運送業などへの人材紹介を想定している。ポータルサイトでは、労働者を紹介したい事業者と、受け入れたい事業者がそれぞれ登録し、県が事業者同士を橋渡しする。8月にはアフターケアなどを手掛ける支援拠点も設立する予定。

以上

景 気 指 標

三十三総研
2020/7/31

< 三重県 >

(注) ()内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2018年	2019年	2019年		2020年		2020年				
			7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	2月	3月	4月	5月	6月
大型小売店販売額(全店)	(0.8)	(0.1)	(2.5)	(1.1)	(4.2)		(7.9)	(3.5)	(3.8)	(9.8)	
同(既存店)	(0.1)	(2.2)	(0.4)	(2.6)	(2.0)		(5.5)	(0.9)	(1.3)	(3.0)	
新車販売台数(軽を除く、台)	60,175	58,613	15,884	11,175	15,104	9,471	4,732	6,452	3,102	2,494	3,875
	(0.5)	(2.6)	(9.2)	(22.8)	(17.3)	(28.7)	(21.0)	(14.8)	(24.0)	(42.3)	(20.6)
うち乗用車販売台数(台)	53,322	51,181	13,685	9,810	13,291	8,182	4,178	5,634	2,638	2,144	3,400
	(0.1)	(4.0)	(6.3)	(23.0)	(17.1)	(29.7)	(20.2)	(15.5)	(25.6)	(43.8)	(20.7)
新車軽自動車販売台数(台)	41,157	41,008	10,828	7,992	11,162	6,568	3,587	4,504	2,266	1,526	2,776
	(2.8)	(0.4)	(10.8)	(16.2)	(9.3)	(33.5)	(10.4)	(2.8)	(30.4)	(52.7)	(18.5)
うち乗用車販売台数(台)	32,501	32,393	8,672	6,148	8,955	5,050	2,896	3,647	1,787	1,117	2,146
	(1.5)	(0.3)	(13.2)	(14.4)	(8.9)	(34.8)	(9.7)	(2.2)	(31.6)	(55.6)	(18.0)
新設住宅着工戸数(戸)	10,616	10,162	2,598	2,643	2,439		904	824	693	669	
	(2.6)	(4.3)	(15.8)	(1.4)	(13.4)		(39.7)	(7.6)	(16.8)	(30.2)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	8,901	8,796	2,509	2,086	1,477		513	404	152		
	(7.0)	(1.2)	(5.0)	(8.0)	(27.4)		(13.8)	(51.9)	(79.1)		
有効求人倍率(季調済)	1.71	1.66	1.64	1.56	1.39		1.39	1.34	1.29	1.17	
新規求人倍率(季調済)	2.43	2.40	2.33	2.25	2.06		2.09	2.09	1.76	1.79	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	91,910	88,206	21,239	21,155	19,579		6,572	5,660	5,199	4,677	
	(3.4)	(4.0)	(6.1)	(6.6)	(17.7)		(17.6)	(18.6)	(33.5)	(34.7)	
名目賃金指数(調査産業計)	(0.6)	(0.6)	(2.8)	(0.3)	(2.0)		(1.2)	(3.0)	(1.7)		
実質賃金指数(同)	(1.8)	(0.4)	(3.1)	(0.4)	(1.7)		(1.0)	(2.6)	(1.9)		
所定外労働時間(同)	(5.2)	(1.7)	(0.0)	(5.0)	(5.8)		(4.9)	(8.0)	(21.2)		
常用雇用指数(同)	(1.0)	(0.1)	(0.1)	(0.4)	(1.1)		(1.6)	(0.5)	(0.2)		
鉱工業生産指数	(3.6)	(4.1)	(5.7)	(9.8)	(6.2)		(4.8)	(5.1)	(7.7)	(21.3)	
	-	-	< 4.0>	< 0.4>	< 0.1>		< 0.9>	< 8.0>	< 0.2>	< 9.0>	
生産者製品在庫指数	(2.5)	(3.2)	(4.0)	(6.1)	(11.8)		(12.2)	(11.9)	(17.6)	(14.8)	
	-	-	< 4.0>	< 0.6>	< 6.0>		< 0.5>	< 2.3>	< 3.3>	< 2.5>	
企業倒産件数(件)	67	68	12	23	24	14	9	4	7	3	4
(前年同期(月)比)(件)	(33)	(1)	(5)	(1)	(12)	(7)	(4)	(1)	(1)	(3)	(3)
非居住用建築物着工床面積(千㎡)	925	622	129	159	121		37	31	57	27	
	(27.9)	(32.8)	(44.6)	(44.0)	(27.0)		(48.3)	(65.8)	(11.7)	(37.8)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	934,412	74,975	163,945	200,116	187,537	71,058	65,496	47,202	30,096	19,578	21,384
輸出(百万円)	858,926	907,716	235,031	218,383	210,096	156,159	62,314	82,723	65,038	43,657	47,464
	(6.8)	(5.7)	(5.8)	(1.4)	(12.1)	(27.5)	(19.1)	(1.0)	(18.5)	(36.1)	(29.4)
四日市港 輸出(百万円)	836,407	836,047	197,888	213,201	195,476	150,580	62,300	73,227	59,459	43,657	47,464
	(4.2)	(0.0)	(7.7)	(3.6)	(12.5)	(25.3)	(10.2)	(3.4)	(18.8)	(35.8)	(21.4)
輸入(百万円)	1,793,338	1,657,470	398,976	418,499	397,633	227,217	127,810	129,925	95,134	63,235	68,848
	(25.7)	(7.6)	(15.7)	(12.5)	(6.6)	(45.1)	(9.9)	(3.6)	(33.3)	(51.5)	(51.2)
公共工事請負金額(億円)	2,170	1,793	585	362	312	508	59	173	188	126	194
	(2.8)	(17.4)	(5.3)	(5.0)	(5.2)	(1.6)	(55.9)	(64.3)	(33.7)	(46.7)	(32.1)
津市消費者物価指数	(1.2)	(0.2)	(0.3)	(0.2)	(0.3)	(0.1)	(0.2)	(0.2)	(0.1)	(0.1)	(0.2)
同(除く生鮮)	(0.9)	(0.4)	(0.0)	(0.3)	(0.4)	(0.0)	(0.4)	(0.2)	(0.1)	(0.3)	(0.2)

< 東海3県(三重・愛知・岐阜) >

	2018年	2019年	2019年		2020年		2020年				
			7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	2月	3月	4月	5月	6月
大型小売店販売額(全店)	(1.2)	(1.1)	(2.3)	(2.7)	(1.0)		(3.4)	(5.8)	(12.6)	(5.7)	
同(既存店)	(0.4)	(1.1)	(1.6)	(3.0)	(1.9)		(2.6)	(7.4)	(15.4)	(9.0)	
新設住宅着工戸数(戸)	88,848	88,566	21,933	22,412	19,055		5,767	7,095	7,208	4,960	
	(4.1)	(0.3)	(8.6)	(3.2)	(8.7)		(16.5)	(6.1)	(15.5)	(44.8)	
有効求人倍率(季調済)	1.92	1.90	1.88	1.82	1.58		1.56	1.50	1.43	1.28	
新規求人倍率(季調済)	2.88	2.90	2.82	2.76	2.40		2.39	2.53	2.09	1.93	
鉱工業生産指数	(1.0)	(2.4)	(0.1)	(7.4)	(7.2)		(9.3)	(7.9)	(24.2)	(42.6)	
	-	-	< 2.5>	< 4.8>	< 1.3>		< 3.9>	< 1.4>	< 15.7>	< 19.5>	
企業倒産件数(件)	833	762	201	205	201	163	52	68	84	22	57
(前年同期(月)比)(件)	(66)	(71)	(1)	(6)	(29)	(21)	(3)	(15)	(31)	(37)	(15)
域内外国貿易 純輸出(億円)	79,647	79,929	19,419	19,537	18,776	9,006	7,875	6,664	3,402	2,105	3,499
輸出(億円)	172,027	168,651	41,525	41,239	38,872	25,899	13,566	13,698	10,336	7,194	8,369
	(6.3)	(2.0)	(3.3)	(7.3)	(10.3)	(39.1)	(9.1)	(14.8)	(31.6)	(44.9)	(41.8)
輸入(億円)	92,379	88,722	22,105	21,702	20,096	16,893	5,691	7,034	6,934	5,088	4,871
	(13.1)	(4.0)	(7.7)	(12.5)	(11.2)	(24.2)	(20.0)	(9.7)	(4.6)	(37.2)	(29.5)

各指標における直近の数値